

令和5年(2023年)11月14日

保護者の皆様へ

吹田市立古江台小学校
校長 川中 倫世

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個別の結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

全体の正答率は、全国値を上回っていた。

●国語《各領域における成果と課題》

言語の特徴や使い方に関する事項・・・全国値を上回る

- ・「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う」ことは、概ねできていたが、「同音異義語を正しく使う」ことは、課題がある。
- ・「日常よく使われる敬語を理解している」ことは、課題がある。

情報の扱い方に関する事項・・・全国値を上回る

- ・「原因と結果など情報と情報の関係について理解している」ことは、概ねできている。
- ・「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」ことは、課題がある。

話すこと・聞くこと・・・全国値を上回る

- ・「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえる」「目的や意図に応じ、話の内容をとらえ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」ことは、概ねできている。

書くこと・・・全国値を上回る

・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことは、課題がある。

読むこと・・・全国値を上回る

- ・「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」ことは、できている。
- ・「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」ことは、課題がある。

●国語科における成果と今後の改善点について

全体的には、全ての設問において全国値を上回り、良い結果でした。

「話すこと・聞くこと」においては、低学年では事柄の順序を意識し、自分の聞きたいことを明確にして聞く活動、中学年では、予想して聞いたり自分の知っていることと比べたりして自分の考えをまとめて発表する活動、高学年では、話し手と自分の考えの共通点・相違点を整理したり事例を取り上げたりして自分の考えをまとめる活動を増やしていきます。

「書くこと」においては、低学年では時間や順序を表す語句を用いたり内容のまとまりを確かめる、中学年では、「なぜならば～」「～のためである」「例えば～」などの表現を用いて理由や事例を記述する、高学年では、目的を明確にして引用したり、図解や表・グラフを示してわかりやすく事実を伝えたりする学習が必要だと考えます。

「読むこと」においては、低学年では、書き手が伝えたいことや読み手に必要な情報を見つける、中学年では、元の文章構成や表現を生かして目的に応じて要約する、高学年では、目的に応じて必要な情報の取捨選択・整理・再構成し、論の進め方や理由・事例の用い方などを考える活動をしていきたいと考えます。

●算数《概要》

全体の正答率は、全国値を上回っていた。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算・・・全国値を上回る

- ・「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする」ことは、できている。
- ・「(2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える」ことは、課題がある。

図形・・・全国値を上回る

- ・「正方形の意味や性質について理解している」ことは、できている。
- ・「正三角形の意味や性質について理解している」「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」ことは、課題がある。

変化と関係・・・全国値を上回る

- ・「伴って変わる2つの数量について表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める」ことは、できている。
- ・「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」ことは、課題がある。

データの活用・・・全国値を上回る

- ・「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る」ことは、できている。
- ・「棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する」ことは、課題がある。

●算数科における成果と今後の改善点について

全体的には、全ての設問において全国値を上回り、良い結果でした。

「数と計算」においては、他教科や日常生活の数量と関連付けていきます。

「図形」においては、中学年では定規やコンパス、方眼を用いた作図に加えて、ひごでの構成や紙を折るなどのいろいろな方法で図形を作る活動、高学年では目的に応じて構成要素に着目したり既習の考え方と結びつけたりする活動を重視していきます。

「変化と関係」においては、割合について具体的な生活場面から問題を見つけて意味理解をはかることが重要だと考えています。数量関係を図や式と結びつけて表して規則性を見いだすことにも取り組んでいきます。

「データの活用」においては、複数のグラフを組み合わせた資料を取り上げ、特徴や傾向の妥当性について、目的に応じて考察したり説明したりする活動を増やしていきたいと考えます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人が困っているときには、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」については、肯定的に回答している。
- ・「自分には、よいところがある」については肯定的な回答が多かったが、「将来の夢や目標を持っている」については、否定的な回答もあった。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」については肯定的な回答が多いが、「地域行事への参加」については肯定的な回答が少ない。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」については、肯定的な回答が多いが、否定的な回答もあった。
- ・「読書は好き」についての肯定的な回答は多いが、「普段の1日の読書時間が10分未満」「学習以外で学校図書室や吹田市立図書館に行くのは年に数回以下」の回答が約3～4割あった。

【教科・学習について】

- ・「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する」については、肯定的な回答も多い。
- ・「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」「学習した内容について、わかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげている」については、肯定的な回答も多い。
- ・「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」については、肯定的な回答が多かったものの、否定的な回答もあった。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」については、肯定的な回答がやや少なかった。

3. 今後の取り組み

学力・学習状況調査において、本校6年生児童は、全体として全国値を上回る結果でした。日頃の子どもたちの学習に対する姿勢、努力が反映されたものとなりました。これも保護者の皆様が、各家庭での学習環境作りに留意してくださっていることが大きく関わっていると考えております。

教科に関する結果を踏まえて、国語科を中心として「相手に自分の思いを伝え合える子どもの育成」のための指導の工夫や授業改善を引き続き行います。また ICT 機器を効果的に活用した授業、各教科で表現活動を重視した指導などをいっそう進めてまいります。学んだ知識・技能が、教科学習はもちろん日常生活とも関連するように授業の工夫に取り組みたいと考えます。児童一人ひとりが目的意識をもち、問題解決の道筋を考えて学習活動にのぞめるよう、主体的な学びについても研究を進めていきます。

生活習慣や学習環境等の結果を踏まえ、日々の生活や学習、行事等を通して子どもたち一人ひとりが自分や友達の良さに気づき、互いに認め合い、協力できることの喜びや大切さに気づけるよう、今後も指導を進めてまいります。また、誰もが安全・安心と感じられる学校生活を送ることができるよう、いじめ予防授業、デジタルシティズンシップ教育、人権教育など、教育活動全体において、人との関わりを考える活動を進めてまいります。

今回の学力・学習状況調査からみた課題を踏まえ、子どもたちがより充実した学校生活を送り、新しい時代を生きるために必要な教育を目指し、学校教育活動の充実を図ってまいります。そのためには学校、家庭、地域の連携が必要不可欠です。今後とも学校の取り組みにご理解ご協力をお願いいたします。